

曖昧事例の実践まとめ

1. 導入部

生徒に「倫理」という言葉の意味を知っているか、または漠然と言葉のイメージを理解しているかを聞いたところ、ほとんどの生徒が知らない・イメージが湧かないという答えだった。ここから生徒たちは普段からそこまで倫理的な考え方や倫理というものについて意識して生活をしていないことが推測できる。

2. 展開部

はじめに個人でワークシートに取り組ませた。結果は次の通りである。

教師が設定した解答例は「4・5・3・2・1」の順番で、5と3の間に境界をつくるとした。

生徒名	順番				
1	5	4	3	2	1
2	2	5	4	1	3
3	5	4	3	2	1
4	4	5	3	2	1
5	4	5	3	2	1
6	4	5	3	2	1
7	5	4	3	2	1
8	5	4	2	3	1
9	5	4	3	2	1
10	4	5	3	2	1
11	4	5	2	3	1
12	5	4	2	3	1
13	4	5	3	2	1
14	4	5	2	3	1

生徒名	順番				
15	4	5	3	2	1
16	5	4	3	2	1
17	5	3	4	2	1
18	4	5	2	3	1
19	4	5	3	2	1
20	5	4	3	2	1
21	4	5	3	2	1
22	5	4	3	2	1
23	5	4	2	3	1
24	4	5	3	2	1
25	4	5	2	3	1
26	4	5	2	3	1
27	4	5	2	3	1
28	5	3	4	2	1

5	12	16	0	0	0
4	15	10	3	0	0
3	0	2	16	9	1
2	1	0	9	18	0
1	0	0	0	1	27
境界位置	2	13	10	3	0

概ね解答例に近い順番となったが、境界位置については大きく2つに分かれた。結果を見ると、12番、25番、27番の生徒は図面を作り直さず、そのまま工事を進めること以外は許せる行為としている。最低でも何らかの対応策を取ることが必要だと考えていることが分かる。

次にグループ討論をした後の結果である。

	許せる				許せない
1班	4	5	2	3	1
2班	4	5	3	2	1
3班	4	5	2	3	1
4班	4	5	3	2	1
5班	5	4	3	2	1
6班	4	5	2	3	1

グループ討論後は解答例の順番通りに予想する班が多く出た。境界位置の差は図面が作り直されるか、そうでないかによって生まれているようであった。5番や4番で区切っている班の意見は、

- ・確実に新しい図面が出来上がると考えられるから。
- ・正しいものを提示することができるから。

といったものである。2番で区切っている班の意見は、

- ・3番は図面を作り直さないから。
- ・まだ図面を作り直す可能性があるから。

という意見が出た。以上から、生徒たちの境界位置の判断基準は、誤った図面を直すか直さないかという所にあると考えられる。

3. まとめ

生徒の自己評価は次の通りである。

質問① 自分の考えで線引きすることが出来ましたか。

質問② 倫理という言葉の意味を理解出来ましたか。

質問③ 職業倫理について知ることが出来ましたか。

質問④ 自分の考えを上手く伝える事が出来ましたか。

自由記述 社会の中で倫理観はどのような役割を担うか自由に記述して下さい。

該当番号	質問①	質問②	質問③	質問④
1 (そう思う)	12	9	12	8
2	12	13	11	11
3	3	4	4	7
4	1	2	1	1
5 (思わない)	0	0	0	1

自由記述内容

- ・事故なども最小限に抑えることが出来そう。
- ・守ることによって世の中が成り立つ。
- ・善悪の判断が正しくできれば、多くの人が心地よく思える社会になると思う。
- ・ミスをしてしまったときにも大きな過失になるのを防ぐことができる。
- ・善悪の判断をするための指針になる。
- ・最悪の想定を考えて仕事をしたほうがよいと思う。

自己評価より、生徒達は概ね倫理や職業倫理というものについて理解出来たと考えられる。自分の倫理観と他者の倫理観をぶつけあう場を今回設定できたことは非常に有意義であった。また、実際に自分が働いていくときに、どのような事を考えて仕事をしていけば良いのかを検討する機会にもなった。各班活発に討論をしている様子から、時には実際に起こった事例について考えていく時間も作っていき、職業倫理や技術者倫理を育んでいきたいと思う。